報告記事

第 73 回 通 常 総 会
第 115 回 講 演 大 会

昭和 63 年 3 月 31 日第 73 回通常総会，名誉会員推挙式，表彰式，特別講演会が，また 3 月 31 日から 4 月 2 日までの 3 日間第 115 回講演大会が千葉工業大学で開催された．

第 73 回 通 常 総 会

第 73 回通常総会は久松会長が議長となり，木下副会長・専務理事司会のもと 3 月 31 日 9 時より千葉工業大学 435 教室で開催された．冒頭に久松会長の挨拶が行われた．

本日ここに社団法人日本鉄鋼協会，第 73 回通常総会を開催いたしましたところ，諸先輩をはじめ多数会員のご出席をいただき厚くお礼申し上げます．

本日から 3 日間の会期で，第 115 回春季講演大会を開催いたしますが，開催に先立ちまして千葉工業大学関係各位の格別なご好意によりまして，津田沼キャンパスの広範囲にわたる施設をお借りすることができました．まことに有難く厚くお礼申し上げます．つきましては本会にふさわしい学術講演大会であり，会員各位にとつて有意義であるよう願つております．

今大会の特色を一言で申し上げますと，製銑・製鋼関係では新製鉄法である溶融還元法に代表されます．萌芽境界領域としては，初めて超電導のセッションを採り上げましたところ，19 件の発表が申し込まれております．また討論会では先端材料の開発あるいは高機能化のために果たしたキャラクタリゼーションについて採り上げました．

講演発表数は，752 件と前年に比べ多少減少しておりますが，内容は充実しており会員にとりましては，有益なものが多いと存じております．

本協会の事業につきましては，後刻，竹内久彌理事からご報告があるところでありますが，いずれも諸事業は関係理事をはじめ委員各位のご努力により，順調に運営されているものと存じます．さて，私が会長に選出されましてからの大きなテーマの一つは，「本会の事業運営のあり方」を検討することでありました．このため，昭和 61 年度には，当時の白松爾郎副会長を委員長とする「臨時協会事業検討委員会」を設置いたしました．委員会には三つのグループを設け，田中良平会員を主査とする第一部会，河野拓夫会員を主査とする第二部会，大橋延夫会員を主査とする総合 WG に業務を分担，精力的に調査していただきました．調査項目は，協会活動範囲，事業規模，事務局のあり方等でありました．この報告書は，昨年 4 月の理事会において頂戴いたしました．その後「鉄と鋼」第 73 年 8 号に掲載いたしましたので会員各位にはすでにご承知のことと存じます．

理事会ではこの報告書を基本的に受け入れることとし，いかに対応するべきかの具体案を各担当委員会並びに事務局で検討立案することを決定しました．昭和 62 年度は各委員会において作業が進められ，既に多くの事項が逐次理事会の承認を得て実行に移されております．

いずれ会誌「鉄と鋼」に対応方法等を掲載いたしてますので，ここでは一例を申し述べることにいたします．

1．鉄鋼協会の活動範囲につきましては，

イ．研究の流れが定着しつつある分野（チタンなど）については，シンポジウム，国際交流，研究会の編成などにより，基礎から応用まで幅広い視野で研究の活性化を計る．

ロ．現時点では研究が未着手であるか，あるいは活発ではないが，将来の重要性が予測される分野については，タイミングを失することなく啓蒙講演・討論会などを開催する．

ハ．協会の扱う新規分野に関して「鉄と鋼」あるいは欧文誌に逐次解説を掲載し会員に対する広報活動を進める．という今後の活動方針のもとに，会員のメリットを考慮し，鉄鋼を柱としながらも着実な分野拡大を計ることとしたい．

2．会誌「鉄と鋼」につきましては，従来バックナンバーに含まれておりました講演概要集を分離し，独立した定期刊行物「材料とプロセス」（日本鉄鋼協会講演論文集）として春秋各 3 冊計 6 冊を刊行し，有償頒布することといたしました．

今回の講演大会から実行に移しましたので，既にご承知のとおりであります．各位には費用負担というご迷惑をおかけいたしますが，今後も予約による大幅な割引制を継続いたしますのでご理解のほどよろしくお願いいたします．

当協会は創立以来 70 有余年，春秋の講演大会をはじめ各種特別講演会，共同研究会をはじめとする研究活動，講座・セミナーなどによる教育事業，多岐にわたる出版・情報活動，さらに国際会議を主催し各国との交流事業に多くの実績を残し，また工業標準化についても ISO の幹事国業務も引き受けてきました．このように本協会の事業範囲はきわめて広く精緻にわたつております．これらの活動により会員の親睦が深められ，最新技術の発表と討論，工場現場・研究所の見学も許す限り自由に行われるという場があつて，鉄鋼技術の発展に大きく寄与したいと思います．今後も更に発展を続けるためには，高い視野のもとに本会の特長を生かしつつ学会・業界を通じての学術技術の交流活動を続けたいと存じます．

本日，この総会の後の名誉会員推挙式において池島俊雄殿，草川隆次殿，舘野万吉殿，豊田茂殿の 4 名の方々を本会名誉会員に推挙申し上げることになつております．

また，渡辺義介賞，西山賞をはじめ各賞の表彰式が行われますが，新名誉会員ならびに，受賞者のご業績に対しまして心から敬意を表しお祝い申し上げますと共に，今後いつそうのご研鑽を願うものであります．

本日は故・澤村宏本会元会長殿のご家族澤村惇殿か

ら，故人のご意志による金壱千万円のご寄付を頂戴することになつておりますのでお知らせいたします．

最後に会員各位におかれましても，ますますご研鑽を願うとともに，日本鉄鋼協会も渾身の努力を傾注いたしますので，いつそうのご支援をお願いするしだいでございます．

以上挨拶が行われた後，総会の議事に入つた．付議された議案は次のとおりである．

議案第1号　昭和62年度事業報告，収支決算ならびに財産目録の件

議案第2号　昭和63年度事業計画ならびに収支予算の件

議案第3号　理事，監事ならびに評議員選挙の件

初めに議事進行上，議案第3号から始められた．選挙管理委員に大蔵明光君，白石春樹君を選び投票が行われ，別室において開票に入つた．続いて議案第1号ならびに第2号が関連しているので一括議題として付され，これを事業と会計に分け，事業については竹内久彌理事，会計については豊島陽三理事からそれぞれ報告ならびに提案がなされた．

「昭和62年度事業報告ならびに昭和63年度事業計画」

（特記事項）

臨時協会事業検討委員会答申の対応策につきましては，先刻，久松会長のご挨拶にもありましたのでここでは部分的にご説明申し上げます．

まず講演概要集を昭和63年度より独立した講演論文誌として春秋各3冊計6冊を刊行し有償頒布することになり，誌名は「材料とプロセス」日本鉄鋼協会講演論文集といたしました．

欧文誌「Trans. ISIJ」につきましては，昭和64年1月号より「ISIJ International」に改名を予定し，各国にアドバイザリーボートを設置する等，国際誌としていつそうの飛躍と外国会員の増加を目ざしております．

調査研究事業では，共同研究会をはじめ各委員会とも部会・分科会の開催頻度，開催要領等を見直し効率化に努めております．

次に鉄鋼技術情報事業においては，昭和62年12月号をもつて「鉄鋼技術総覧」を廃刊いたしました．一方，情報サービス収入の増収に努力することにいたしました．また，支部活動の活性化をはかるため各支部規則の見直しを行つております．

そのほか，事業関係の特記事項といたしましては，国際交流事業関係では，日本・チェコ合同シンポジウム，日本・ドイツセミナー，日本・中国鉄鋼学術会議を開催し，昭和63年度には6月に加工熱処理の物理冶金に関する国際会議を開催する予定になつております．

ISO/TC 17幹事国業務では第6回ISO/TC 17/EC会議を開催いたしました．昭和63年度におきましてはTC 17総会をオスロで開催する予定です．

（会　誌）

次に各事業の概略につき申し上げます．まず会誌関係ですが，昭和62年度の和文会誌「鉄と鋼」は講演概要集4冊，普通号11冊，特集号「製銑技術の拡大と高度化」の計16冊を発行いたしました．また，欧文誌「Trans. ISIJ」は特集号4冊を含め，12冊発行いたしました．昭和63年度の「鉄と鋼」「Trans. ISIJ」は共に各12冊の発行を予定しております．また先ほど申し上げましたように講演論文集「材料とプロセス」を春秋各3冊計6冊発行します．

（講演大会）

春秋の講演大会は，春は東京，秋は熊本で開催し，発表件数は討論会を含め1610件でした．また，昭和63年度の講演大会は本日より3日間千葉工業大学で開催し，発表件数は討論会を含め752件であります．秋は大阪大学で行われます．

（技術講座等）

昭和62年度の西山記念技術講座は「ステンレス鋼製造技術の最近の進歩」他2テーマにより，東京，大阪で計6回開催され，白石記念講座は「金属系新素材の開発と応用」と「表面改質による材料の高性能化技術」のタイトルを取り上げました．昭和63年度は西山記念技術講座を5回，白石記念講座を1回予定しております．また，湯川メモリアルレクチャーを2月に開催し「宇宙開発の現状と将来」「研究開発と創造性」の2題で宇宙開発事業団の大澤氏，東北大学の西澤教授にご講演いただきました．

昭和63年度といたしましては明日スタンフォード大学のシャービー教授による湯川メモリアルレクチャーを予定されておりますので多数ご参加いただきたいと存じます．

（調査研究事業）

共同研究会は昭和63年度も鉄鋼全搬にわたる現場的な研究と情報交流を19部会，14分科会の構成により行つております．

特定基礎研究会は鉄鋼業界からの要望課題について基礎的な研究を行つておりますが，昭和63年度より「応力下における腐食評価」「構造材料の信頼性評価技術」の2部会が発足する予定です．

本会と日本金属学会，日本学術振興会三者にて組織しております鉄鋼基礎共同研究会は「鉄鋼の環境強度部会」が終了し，「鉄鋼の急速凝固部会」他3部会が活動いたしております．

標準化委員会は鉄鋼に関する工業標準化を推進するため2部会31分科会の構成で活動を行つております．

鉄鋼標準試料委員会は化学分析用機器分析用等標準試料を製造頒布し，国内外の鉄鋼分析技術の向上に努めております．

（情報事業）

次に鉄鋼技術情報活動でありますが，従来どおり金属関係文献を抄録し，検索システムへの入力作業を行うとともに端末機によるシステムの利用と普及に努めております．

（会　員）

最後に会員数についてでございますが，鉄鋼関係の技術者，研究者の他部門への異動に伴い，昭和61年度に

引き続き昭和 62 年度は 455 名の減少となりました．会員各位にはお互いに我々の学会であるとの認識を深められ，会員数の増加にご協力いただきたく存じます．

本年度は，初めての試みといたしまして，会費のご入金をもつて会員証を発行いたしました．会員証を用いることによつて会員の特典を生かせるよう研究いたしますので，会員の魅力の一つになれば幸に存じます．

時間の関係上事業の要点のみご説明申し上げましたが，今後共協会の運営に関しましてご支援ご協力お願い申し上げます．

「昭和 62 年度会計報告および昭和 63 年度収支予算」

（決　算）

まず一般会計決算の結果，収入は 9 億 793 万 9 243 となりました．本年度は，刊行事業，講演大会研修事業，国際集会事業等の収入で約 1 390 万円の増収はありましたが，個人会員数の減による会費収入の減，抜術情報，繰入金収入等で約 1 225 万円の減収となり，その結果予算に対し約 165 万円の増収となりました．

一方，支出の部におきましての決算の結果は，臨時協会事業検討委員会の答申を踏まえ極力節約に努めましたので，予算に対し約 4 852 万円支出の減となり支出総額は 8 億 5 775 万 5 490 円となりました．

この結果次期繰越金 5 017 万 3 753 円をもつて昭和 62 年度を終了いたしました．

（財産目録）

なお，決算の結果，昭和 62 年度末現在の一般会計保有の純財産は，3 億 4 426 万 9 475 円でございます．

（別途資金会計）

別途資金会計は表彰ならびに事業資金ほか 17 の会計を保有しており，それぞれの目的に応じた事業を行い特別資金運営委員会，理事会の議を経て支出し，または蓄積されておりまして，収支決算および期末保有の財産は資料に示すとおりでございます．

（補助金事業等会計）

次に補助金事業等会計につきましては，11 の特別会計を有し，補助金，委託金あるいは他団体の分担金等により運営しておりまして，ISO 幹事国業務会計をはじめ，いずれも充実した事業を行つております．

（予　算）

続きまして昭和 63 年度収支予算につき，ご説明申し上げます．

（一般会計）

まず一般会計でございますが，昭和 63 年度もたいへん厳しい予算編成方針のもとに編成いたしました．収入の部では，前期繰越金を含め総額 8 億 6 958 万 6 753 円を計上いたしました．これは前年度に対し約 3 670 万円の減額予算でございます．

一方，支出の部におきましては，先刻の事業計画と，臨時協会事業検討委員会の答申に基づき予算策定を行いました．刊行事業では，従来和文会誌に含まれておりました講演概要集を独立した「材料とプロセス」として有償頒布することにいたしました．このため会員各位にはご負担増になりますが，よろしくご理解のほどお願い申し上げます．

通常総会で挨拶される八木新会長（左久松会長）

また，調査研究事業をはじめ各種事業につきましては，活性化を図りつつ合理的運営に重点をおき，極力節約を図りました．

以上により昭和 63 年度の予算は答申の基準年度すなわち昭和 61 年度に対し 8% 削減になつておりまして，昭和 64 年度目標である収支合わせて「10% 以上の改善」に努力中であります．

（別途資金会計）

別途資金会計の予算は例年どおり特別資金運営委員会および理事会の議を経て事業計画をもとに編成いたしました．

特に，表彰ならびに事業資金の収入予算の 1 000 万円は，先ほど久松会長のご挨拶にありました澤村家からのご寄付でございます．

（補助金事業等会計）

本年度は大方継続事業でございまして，ISO 幹事国業務を含め 7 の研究会計等を予算化いたしております．

最後に，本年度も予算の執行には細心の注意をもつて運営いたしますので，会員各位におかれましては，いつそうのご協力を賜りたくお願い申し上げます．

以上議案説明の後高井清監事より監査報告がなされ，満場一致をもつて議案第 1，2 号が承認された．引き続き先に行われた選挙の開票が終わり選挙管理委員より候補はいずれも絶対多数で当選された旨報告された．ここで会長，副会長，専務理事，を互選するため臨時理事会が開催され，会長に八木靖浩君(新任)，副会長に山本全作君(留任)，西澤泰二君(新任)，木下　亨君(留任)，専務理事に木下　亨君(留任)が互選され，通常総会は終了した．

名誉会員推挙式

新名誉会員に次の 4 氏が推挙された．

池島　俊雄君　大阪チタニウム製造(株)会長
草川　隆次君　早稲田大学教授
舘野　万吉君　(株)日本製鋼所相談役
豊田　　茂君　元新日本製鉄(株)副社長

表彰式

続いて表彰式に移り，下記のとおり各賞が授与された．

渡辺義介賞　上杉　年一君
西山賞　中川　龍一君
服部賞　土居　浩一君　羽鳥　幸男君
香村賞　梅根　英二君　益子　美明君
渡辺三郎賞　福岡　利和君　松木　巌君
野呂賞　青木　朗君　加藤　健三君
白松　爾郎君

俵論文賞

佐野　謙一君　重野　芳人君　小林　三郎君
大森　康男君　小塚　敏之君　浅井　滋生君
鞭　巌君　斎藤　好弘君　左海　哲夫君
武田　謙三君　加藤　健三君　早乙女康典君
井口　信洋君

渡辺義介記念賞

磯平　一郎君　伊藤　雅治君　梅本　純生君
川田　敏郎君　管野　勛崇君　君嶋　英彦君
斎藤　栄増君　三宮　章博君　清水　三郎君
高田　努君　谷井　充君　西﨑　允君
東　良学君　山本　倫久君　和栗眞次郎君

西山記念賞

安彦　兼次君　池田　隆果君　石井　邦宜君
上田　修三君　江波戸和男君　大蔵　明光君
奥野　嘉雄君　佐藤　益弘君　白石　春樹君
槌谷　暢男君　苗村　博君　向井　楠宏君
村田　朋美君　渡辺　輝夫君　渡辺　力蔵君

特別講演会

表彰式につづいて次の講演が行われた．

「わが国の軸受鋼の進歩発展について」
渡辺義介賞受賞　上杉　年一君

「金属系新素材研究の現状」
西山賞受賞　中川　龍一君

第115回講演大会

講演大会は3月31日，4月1日，2日の3日間千葉工業大学で開催された．

講演大会　講演数は製銑部門83件，製銑・製鋼共通部門　22件，製鋼部門149件，萌芽・境界領域部門89件，加工・システム・利用技術部門131件，分析・表面処理部門77件，材料部門192件，計752件の研究が17会場にわかれ発表され，活発な討論がなされた．

湯川メモリアルレクチャー　4月1日に開催された．

「Advances in Superplasticity and in Superplastic Materials」

Prof. Dr. *Oleg D.* Sherby

討論会　一般講演の他に次の7テーマによる討論会が行われた．

1. 製銑工程における数学的モデルの活用
   座長　八木順一郎，副座長　田中　整司
2. 連続鋳造の高速化
   座長　梅田　高照，副座長　椿原　治
3. チタン及びチタン合金
   座長　河部　義邦，副座長　貝沼　紀夫
4. 圧延解析はどこまで進んだか
   座長　戸澤　康壽，副座長　松本　紘美
5. 先端材料のキャラクタリゼーション
   座長　合志　陽一，副座長　松尾　宗次
6. 溶融亜鉛系合金めつき鋼板
   座長　羽田　隆司，副座長　広瀬　祐輔
7. 最近の高強度耐熱鋼
   座長　菊池　實，副座長　大友　暁

懇親会　懇親会は3月31日午後6時より船橋グランドホテルで日本金属学会と合同で開催された．細井祐三講演大会分科会主査の司会のもと　小松日本金属学会新会長，八木新会長の挨拶，今大会の開催会場である千葉工業大学の渡辺学長のスピーチの後，三本木東北大学名誉教授の乾杯で始まり，参加者の間で歓談がくりひろげられた．参加者は330名であつた．

ジュニアパーティー　4月1日午後6時より千葉工業大学学内食堂で開催され　若手技術者，研究者を中心に懇談がなされ親交を深めた．参加者は170名であつた．

欠講：今大会において次の講演は欠講されました．

1. 鉄骨建築におけるH形鋼柱はり接合部の合理的補強法
   川鉄研開セ　山本　昇他
2. Effect of non metallic inclusions on hydrogen in Al-killed steel
   Comision Atomica En. Dr. *E. R.* Schiopparell
3. A mössbauser study of the crystallographyc dependence of the surface retained austenite
   USIMINAS *A. L.* Tenuta de Azevedo　他